香川県教育委員会10月定例会会議録

１．開催日時　　令和８年10月23日（金）
開　会　　午前９時30分
閉　会　　午前11時00分

２．開催場所　　教育委員室

３．教育委員会出席者の氏名

教育長	淀谷圭三郎
委　員	木下敬三
委　員	蓮井明博
委　員	持田めぐみ
委　員	武田真由美

４．教育長及び委員以外の出席者

副教育長	塩田広宣
教育次長(兼)政策調整監	和田友樹
教育次長	西原　明
総務課長	景政孝輔
高校教育課長	橋本和之
特別支援教育課長	三宅貴将
保健体育課長	高田孝行
生涯学習・文化財課長	篠原理代子
義務教育課長補佐（兼）主任管理主事	小山　圭
義務教育課長補佐（兼）主任指導主事	植田浩之
高校教育課長補佐（兼）主任管理主事	太田大介
高校教育課長補佐（兼）主任指導主事	笠井真希子
特別支援教育課長補佐	黒川敦生
保健体育課長補佐	大江健二
保健体育課長補佐（兼）主任体育主事	藤田　航
生涯学習・文化財課長補佐	後藤訓子
総務課副主幹	尾藤真由美
義務教育課主任指導主事	堀上洋平
義務教育課主任指導主事	天野　歩
高校教育課副主幹	西　勇気
高校教育課主任管理主事	松岡　功
高校教育課主任指導主事	福家浩一郎
高校教育課主任指導主事	関　正英

特別支援教育課副主幹（兼）主任指導主事　　鳥　井　口　隆
総務課主任主事　　眞 鍋 健 太 郎

傍聴人　　なし

５．会議録の承認

９月 18 日に開催した定例会の会議録署名委員の木下委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

６．非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第１号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

７．議　　案

○議案第１号　令和８年 11 月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第２号　令和９年４月公立学校教職員人事異動基本方針について

義務教育課長及び高校教育課長から、令和９年４月公立学校教職員人事異動基本方針について諮る旨、説明。

【質疑】

＜蓮井委員＞教職員の配置については、今までどちらかというと地域的な広がりに意識を置いていたが、今回は小中学校を含めて、全県的視野に立ち、柔軟に配置していこうとしており、非常によいと思う。問題は、現場の先生方がこのことを理解して、どこまで前向きに受け入れてくれるかということになる。このことについて、何か方策はあるか。

＜高校教育課長＞これまで、特別支援学校や大学など横の交流をしてきた中で、縦の交流を意識していきたいということがある。ただ、例えば、中学校は、中高一貫教育もあるからよいが、小学校との交流は難しい部分もあるかと思う。少しずつでも先生方に理解いただいて、小学校や中学校とも交流し、小学校での経験を高校で活

かしたり、高校での経験を小学校で活かすということを進めていきたい。
＜蓮井委員＞現場の理解が浸透するよう、お願いする。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第３号　令和９年度における県立学校の生徒及び幼児の定員について

高校教育課長及び特別支援教育課長から、令和９年度における県立学校の生徒及び幼児の定員について諮る旨、説明。

【質疑】
＜木下委員＞一昨日、見学した三木高校の今年の１年生は 130 人ほどだったかと思う。入学定員は、今年度、来年度ともに各学科 70 人となっており、今年度の入学生は定員に満たなかったということになる。中学校卒業予定者数を基に入学定員を決定しているが、ここ数年、定員割れの学科が散見される。その理由の１つに、私立の通信制に進学しているということがあると思っている。中学校卒業予定者数だけではなく、今後、過去の私立の通信制に進学した生徒数も勘案しながら倍率を決定すれば、もう少し精度の高い倍率が出るのではないかと感じた。
＜高校教育課長＞その通りである。全体の定員を決定する際に、中学校卒業予定者数に、全日制高校入学志願率をかけて定員を出す。よって、県全体で中学校卒業予定者数が 26 人減であるにもかかわらず、公立高校入学定員が 34 人減となっているのは、全体の卒業予定者数に全日制高校志願率を乗じるが、私立の通信制に進学する生徒がいるので定員が減っているものである。現在、県下に通信制高校が広域通信制を除いて５校あり、１学年 450 人程度在籍している。昨年度は広域通信制に進学する生徒が 350 人程度おり、通信制全体で 800 人程度いるので、約 10%の生徒が通信制に進学していると理解しているが、今年、全日制高校入学志願率が 89%程度となっているので、中学校卒業予定者が 26 人減に対して公立学校入学定員が 34 人減になっている。木下委員のご意見のとおり、それらも勘案しながら、今後も推移を見ていかなければならないと思っている。
＜武田委員＞逆に東かがわ・さぬき地区では、中学校卒業予定者数 44 名の減に対して、定員の増減はゼロで、その理由は、地域の学びの維持ということだが、具体的に教えていただきたい。
＜高校教育課長＞今回、定員を設定するにあたり、柱が２つあった。１つは 2040 年問題であり、エッセンシャルワーカーや理系人材が不足する中で、公立高校の役割として、専門学科の定員は、メッセージとしても減らすことが難しいということがある。もう一つの柱が、高校生までは地元で学んでほしいというものである。高松志向が非常に強く、東かがわ・さぬき地区は、高松地区と同じ第一学区なので、高松地区に進学できる。東かがわ・さぬき地区の中学校を卒業した生徒には、東かが

わ・さぬき地区の高校で学んでほしいということもあり、中学校卒業予定者数は、高松地区で126人増え、東かがわ・さぬき地区で44人減であるが、東かがわ・さぬき地区の定員を維持している。現在、東かがわ・さぬき地区の中学校を卒業した生徒の４割程度が高松地区に進学している。また、東かがわ・さぬき地区の高校の生徒の３割程度は高松地区から通っている。

＜持田委員＞津田高校が１クラス27名で３クラスあり、三本松高校が１クラス29名で４クラスとのことだが、最大で１クラス40名という高校もあるかと思う。以前、丸亀高校に見学に行った際に、理系と文系に分かれた後は（文理選択後のクラス編成では）、40人超えても１クラスにまとめるため、狭い教室に密集していて、環境があまりよくないのではないかと感じた。私立高校が無償化になると、学習環境の良いそちらに流れていくと思っており、１クラス30人未満というのが、理想的な環境だともいわれている。同じ公立学校で、学級定員が少ないクラスと、学級定員最大となっているクラスが併存していることは、不公平感があると感じる。先生の雇用等で難しい部分があるというのは重々承知しているが、場合によっては、１クラスの人数を減らして学級数を増やす形で、もう少し公平性を担保した方がよいと思っている。

＜高校教育課長＞今後も検討を続けていく。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

８．その他事項

○その他事項１　香川県学校支援チーム（D-EST かがわ）の設置について

総務課長から、香川県学校支援チーム（D-EST かがわ）の設置について、説明。

【質疑・意見交換】

＜木下委員＞県外で災害が発生した時に、香川県から15名を派遣して、県外の教育に貢献するということか。

＜総務課長＞その通りである。ただ、一方で、香川県で災害が起きた場合には、この15名の方に専門的に担っていただきたいと考えている。

＜蓮井委員＞県外で大規模災害が発生した場合、全国どこでも、条件なしで派遣するということか。

＜総務課長＞15名を編成しているが、例えば４～５名を１チームとして、交代で派遣するという形も考えている。その時に、業務の都合や体調、行き先等、事情を踏まえて班編成をさせていただくようになると考えている。

＜蓮井委員＞その枠組みは、候補者の方にはきちんと理解してもらっているのか。

＜総務課長＞そう認識している。

○その他事項２　令和８年度香川県学習状況調査の結果について

義務教育課長から、令和８年度香川県学習状況調査の結果について、説明。

【質疑・意見交換】

＜武田委員＞最終的には、学力の向上を目指すとの説明があったが、目指すところは学力の向上だけではなく、他にもあると思う。ゴールをどこに置いているのか、改めて伺う。

＜義務教育課長＞学力の向上も大事だと思うが、県の教育基本計画で掲げられている、夢と志を持って、自ら学び、歩み続ける人になってもらいたいと考えており、生きる力に繋げられるようなゴールにしたいと考えている。特に、学力だけではなく、学び続けることという点で、学習習慣を身につけることも大事であると考えており、今回、「学校の授業以外に、普段１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対する回答の時間の推移などを見て、学習習慣がきちんと身についているかという点も踏まえて施策を考えていきたい。

＜武田委員＞自分のことを大事に思うかとか、学校に行くのは楽しいと思うかという質問がある。学年が上がるごとに、「思う」と回答している割合が下がるのは仕方ないとは思うが、極端に減ることはあまり良くないと思っている。どのように見ればよいか、伺う。

＜義務教育課長＞自己有用感等に関する調査については、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問がある。自己有用感等は、例えば、体験活動等の集団生活の中で自分の価値を認識する力を育むことなどを通して、上げていければいいと思うが、学年によって属性等はあるので、この結果だけで一概に、すごくダメだったと考えることはしない。結果は結果として受け止めている。

＜木下委員＞私はいつも回答率が非常に気になる。児童生徒の Google アカウントがない場合で、学年・組・出席番号が重複したデータは、送信日時が最も新しいデータを残し、それ以外は無効回答とし、集計に含まない、とある。例えば、中学３年生は回答率が 86.2%だが、13.8%の人はアカウントを持っていないということか。

＜植田課長補佐＞例えば、自分が Google アカウントを持っておらず、１組３番だとした場合、２人が１組３番と誤って入力したら、後から入力した方を正規の１組３番と認識し、先に入力した１組３番の回答が消えてしまう。後から入力したもののみを回答とする形になる。

＜木下委員＞では、出席番号等を誤って入力して、回答が重複して無効回答になる場合がよくあるということか。

＜植田課長補佐＞そのとおりである。Google アカウントを持っていれば、本人と認識できるが、Google アカウントがない場合は１組３番と回答した生徒が３人いた場合、２つの回答が消えて１つだけ残ることになる。

＜木下委員＞小学３年生の回答率が 96.6％と、かなり高い回答率であるが、中学３

年生の回答率が 86.2%となっている。有効回答数が 6,842 人だから、無効回答が 13.8%となると 1,000 人近くになる。それほどたくさんの人が間違えて入力するということは考えにくい。

＜義務教育課長＞今答えた無効回答については、この集計に含まれないので、中学３年生の 13.8%は無効回答ではなく、単に回答していないということである。

＜木下委員＞無回答バイアスという言葉がある。回答していないグループと回答したグループの間で、考え方に大きな違いがあった場合に、それが表に出てこないので、全員に答えさせるのが正確な結果となるのではないかと思う。

＜義務教育課長＞自己有用感等は、回答した人の方が高く、回答してない人が低いかもしれないということかと思う。

＜木下委員＞無回答が 1,000 人近くいるということは、無視できる数よりも大きいと個人的には感じている。

＜教育長＞５月１日現在の中学３年生の在籍生徒数との差が、無回答率ではないのか。

＜木下委員＞有効回答数を 0.86 で割った数字が在籍生徒数になるということか。

＜義務教育課長＞そのとおりである。無効回答が全体の 0.6%ぐらいであり、在籍生徒数から無効回答数を除いた数字のうちの 13.8%が無回答であるが、資料に記載していないので、そちらは記載するようにしたい。

＜教育長＞無回答がなお多いということか。

＜西原教育次長＞木下委員からは、いつも欠席者についてご意見をいただいているが、来年度からは教科の調査もタブレットでできるようになる。今、学校は、調査を実施している時間帯に登校してきていない生徒に、別の時間帯に回答させようと努力しているが、足りていないかもしれないので、今後呼びかけをして、できるだけ多くの生徒の回答を得られるようにしたい。

＜武田委員＞この調査をしている時に登校できていない不登校の生徒は回答していないということか。

＜教育長＞それにしても無回答の数字が大きい

＜義務教育課長＞不登校の生徒の割合以上に、無回答の割合が高い。

○その他事項３　令和９年度香川県公立高等学校入学者選抜実施細目について

高校教育課長から、令和９年度香川県公立高等学校入学者選抜実施細目について、説明。

【質疑・意見交換】

＜武田委員＞今年度から調査書等を電子化するということだが、昨今、電子システムに何が起こるかわからない状況である。最悪の場合、紙に戻すことも考えられなくはないと思うが、その場合の手順は整理されているのか。

＜高校教育課長＞インターネット出願システムに関しては、県のセキュリティ要件を満たした業者でもある。システム業者にも確認したが、現時点で報道されているような個人情報の漏洩やシステムの安全性に関わる事案は発生していない。しかし、ご指摘の通り、何が起こるかわからないことから、万全の体制を作り上げていくとともに、引き続きシステム業者と連絡を密に取りながら、対策を継続していきたい。このシステムに慣れると、中学校や高校の先生は非常に助かると思うので、電子化を継続しながら、最悪の場合も想定し、検討していきたい。

＜木下委員＞提出した書類のファイルをそのままコピーして、先生が自分の端末などにデータをダウンロードできるシステムなのか。

＜関主任指導主事＞中学校がアップロードしたファイルは、クラウド上にある。

＜木下委員＞バックアップを取れるようになっているのか。

＜関主任指導主事＞そのとおりである。

＜教育長＞高校側がスタンドアロンに全部ダウンロードできるのか。

＜関主任指導主事＞出願システムには校務用のパソコンから接続し、その後は高校ごとに運用している。

＜教育長＞組織のセキュリティ体制は、一般的なネットワークのセキュリティ体制と同じということか。それは、ダウンロードしていた場合、ネットワークが攻撃されたらアウトだから怖い。

また、入学願書と調査書はどのように紐づけるのか。例えば、A君の願書と調査書がクラウド上で完全に紐付けられるのか。

＜関主任指導主事＞志願者は昨年同様、名前や生年月日が記載されている願書を電子データでアップロードする。中学校は、自分の中学校の全生徒の調査書のデータを一つのエクセルファイルまとめて、システムにアップロードする。システム上に上がってきた２つのデータの志願者の名前、生年月日が一致しているものが同じ人のデータと認識され、システム上でデータが紐づくことになる。その紐づいた該当生徒のデータのみが出願の時に各高校の方に届く。送付間違いはまずない。

＜教育長＞名前と生年月日だけで紐づけられるとしたら、匿名化されないから、攻撃されたら全部漏れるのではないか。一般的に、もう一つ鍵があって、それで初めて紐付けできるような仕組みになっている。

＜関主任指導主事＞紐付けをする時に、中学校の先生方が生徒の調査番号を最後に目視で確認することで、正確な紐づけが実行される。

＜教育長＞ということは、紐づけされた調査書や願書のデータは一つのデータになって残るということか。紐づけ方として、誰のものかわからないデータがあり、パスワードか何かを入れて初めて誰のデータかわかるような仕組みになっていたりするが、そうではないのか。今回、調査書が入るから、紐づけの方法が余計気になる。作成権限が違うものが、どこかで紐付けされ、それがA君の情報となって、高校にも届いているということか。

＜関主任指導主事＞どういう仕組みになっているか、把握できていない部分がある。
＜教育長＞業者に聞きながら進めてほしい。攻撃に対しては、いろいろ考えてくれていると思っている。

○その他事項４　令和９年度香川県立特別支援学校入学者選考要綱について

特別支援教育課長から、令和９年度香川県立特別支援学校入学者選考要綱について、説明。

【質疑・意見交換】　意見なし

○その他事項５　令和８年度スーパーアスリート育成事業指定選手（追加選手）について

保健体育課長から、令和８年度スーパーアスリート育成事業指定選手（追加選手）について、説明。

【質疑・意見交換】　意見なし